

四万十ファーミングホリデー

#ワーキングホリデー
#関係人口
#農業



高校生を対象としたサップ、カヌー体験会

DATA

- **主な連携先・メンバー**
四万十町役場企画課／四万十オルモ組合会長 榎野章氏／野路・家地川地域の住民の皆様
- **活動地域**
高知県高岡郡四万十町
- **活動期間**
2023 年 10 月～継続中
- **活動資金**
任意団体 Links Keyaki からの寄付／四万十町からの宿泊費減免

目的

廃校となった旧家地川小学校を利用する試みを、5 年以上にわたり検討・実施してきた。その成果として、農業を手伝い、大学生が地域の魅力発見を行い、関係人口を創出すること。

活動内容

約 40 名の学生と、四万十町内の旧家地川小学校の体育館に、グランピング実験として 8 棟のテントを設置し、三泊の宿泊を行った。この際、二日目、三日目の午前・午後、それぞれ約 20 名ずつが援農活動を行った。農家からは食材の提供や、交流会の企画をいただき、学生はショウガ掘り、芋掘り、ショウガのネット外し、草取りなどの援農作業を行った。この活動を「四万十ファーミングホリデー」と名付けた。また、援農ばかりでなく、今後の関係人口創出のために、近隣の自然環境を利用したリクリエーション（カヌー、

連携にいたる経緯

旧家地川小学校は、現在集落活動センターとして改装されているが、昨年（vol.6 参照）この施設を利用した活性化の試みとして、約 40 名の学生とイベント企画を行った。その際の農家の方との交流から、試験的な援農活動が始まり、これがより広範囲な連携の基礎となった。

サップ）を地元の高校生に体験してもらうことも実施した。さらに、四万十町長との面談の機会をいただき、今後の継続的な実施について学生が説明し、高校ばかりでなく小中学生との交流などについて、町からの支援に言及いただいた。今年度については、ショウガ、芋の収穫に関して体験的な要素が強くなってしまったが、次年度に向けてすぐに調整を始め、実質的な労働力としての援農活動をプランニングしている。

ショウガの倒伏防止
ネット撤去作業支援



サツマイモの収穫支援



体育館を使った
グランピング実験



活動の成果

- ≫ 援農活動を通じた地域との交流の深化。
- ≫ 集落活動センターけやきを中心としたリクリエーション企画の実施。
- ≫ 集落活動センターけやきを利用した関係人口創出の具体的見通しの確保。

今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫ 関係人口の取組みを応援する企業（運輸関係、旅行代理店）との連携。
- ≫ 地域産品の販売ルートを有する企業との連携。
- ≫ 地域に密接した食品加工会社との連携。

連携先からの一言

なかなか鋭くて良い提案でした。また、援農に加えて小学生、中学生など次の世代に夢を持ってもらう、そういった触れ合いを持っていただけたらすごく嬉しく思います。

（四万十町長）

社会学部 教授 与謝野 有紀 Yosano Arinori



社会関係資本論、ポジティブネットワーク形成の理論などの理論的、実証的研究を基礎として、現実の社会問題、特に地域間格差の問題を解決するための実証研究の展開を模索中。

